

三菱UFJフィナンシャル・グループ 株主の皆さまへ

第6期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）



Quality for You 
MUFG

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げますとともに、皆さまの安全と被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

私から、平成22年度の業績およびグループの現況などをご説明いたします。



平成22年度の業績

平成22年度は、金利低下等に伴う預貸金収益の減少やグループ会社での赤字計上などがありましたが、市場部門の好調や与信関係費用の改善、グループを挙げでの経費削減努力の継続などにより、連結当期純利益は目標の5,000億円を上回る5,830億円(前年度比1,943億円の増益)となりました。一部のグループ会社では大幅な赤字を計上しましたが、証券会社ではリスク管理態勢の抜本的な強化、消費者金融会社では将来の利息返還への引当など、平成23年度以降の黒字化に向けた対応策にともなうものです。

貸出は、資金需要の低迷により国内法人貸出が減少したことなどから平成21年度末比減少しました。預金は、個人預金を中心に引き続き増加しております。

財務健全性の観点では、連結自己資本比率は14.89%、中核的な自己資本の割合を示すTier1比率についても11.33%と平成21年度末比改善しました。また、不良債権比率も1.68%と引き続き低水準にとどまっております。

普通株式の配当につきましては、期初予想どおり、1株当たり期末配当6円、中間配当と合わせた年間配当は12円といたしました。

中期経営計画への取り組み

平成22年度は、平成21年度にスタートした中期経営計画の折り返しの年であり、危機対応として経営基盤を再構築する段階から、持続的成長を実現する段階への橋渡しとなる重要な年と位置づけ、成長に向けた態勢整備に注力しました。高成長の続くアジアでは資本基盤の増強や拠点網の一層の拡充を図るとともに、北米ではユニオンバンクとの連携を強化するなど、“守りから攻めへのギアチェンジ”を着実に進めました。また、中期経営計画の課題として掲げた経費削減をはじめとする経営効率化や保有株式の削減も進捗いたしました。

平成23年度は中期経営計画の総仕上げの年となります。震災による景気の一時的な落ち込み懸念や国際的な自己資本規制への対応など、依然厳しい外部環境が続きますが、グループ総合力の強化に向けて着実に手を打ってまいります。経営効率化を一層進めつつ、お客さまのニーズにお応えする商品・サービスのご提供に努めるとともに、海外業務やモルガン・スタンレーとの戦略的提携など重点事業領域には積極的に資源配分を行い、成長戦略をさらに加速していきます。平成23年4月には、モルガン・スタンレーとの提携関係を一層強固なものとするため、保有優先株の普通株への転換に合意しました。これにより同社はMUFGの関連会社(持分法適用会社)となる予定です。また、海外事業運営体制の一段の強化を目的に、7月には国際連結事業本部を設立する予定です。

MUFGは、大震災という未曾有の危機におきましても、金融機関としての社会的使命である資金供給等を通じ、日本の復興に向けて最大限努力してまいります。株主の皆さまの期待や信頼にお応えできるよう、グループの力を結集して取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
取締役社長

永易克典

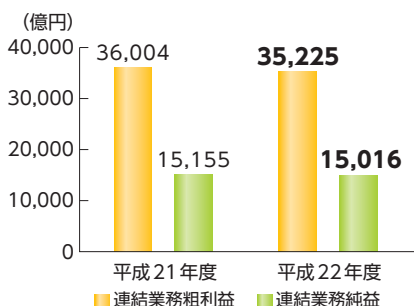
平成22年度の業績

✓ 決算のポイント

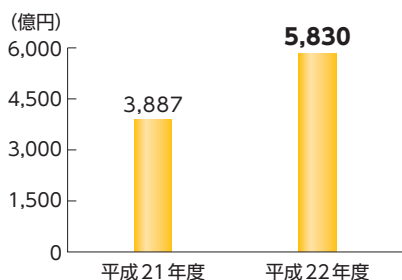
- 連結当期純利益は、業務粗利益が減少したものの、営業費の減少および与信関係費用の改善などから、前年度比1,943億円増益の5,830億円
- 貸出金は、国内法人貸出が減少したことなどから前年度末比4.8兆円減少。預金は、個人預金が増加したことを主因に前年度末比0.2兆円増加
- 連結自己資本比率は、前年度末比0.02ポイント上昇の14.89%

損益の状況

連結業務粗利益・連結業務純益



連結当期純利益



連結業務粗利益は、債券売却損益など市場関連収益が増加しましたが、金利低下等に伴う預貸金収益や貸金業法改正に伴う消費者金融収益など資金利益の減少を主因に、前年度比778億円減少し、3兆5,225億円となりました。

営業費は、引き続きグループを挙げて経費削減に取り組んだ結果、前年度比639億円の減少となりました。この結果、**連結業務純益**は前年度比ほぼ横ばいの1兆5,016億円となりました。

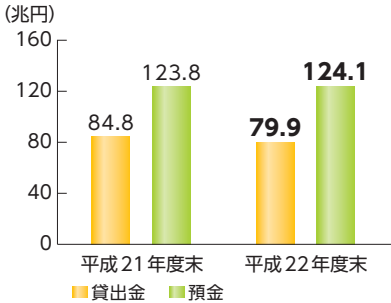
与信関係費用総額は、企業倒産の減少を背景として、貸倒引当金繰入額などが減少したことから、前年度比4,060億円減少の3,541億円と大幅に改善しました。一方、株式等関係損益は、株式相場の低迷による減損(簿価の切り下げ)の拡大を主因に、571億円の損失に転じました。また、その他の臨時損益は、消費者金融子会社において利息返還損失引当金を大幅に積み増したことを主因に前年度比2,053億円悪化し、3,851億円の損失となりました。

以上の結果、経常利益は前年度比1,007億円増益の6,464億円、**連結当期純利益**は前年度比1,943億円増益の5,830億円となりました。

(注)業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

貸出金・預金の状況

貸出金・預金

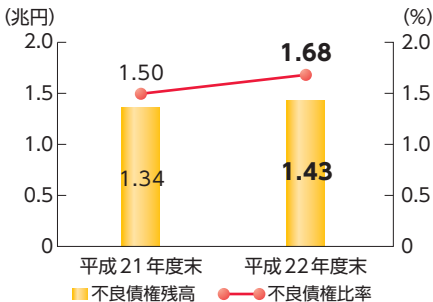


貸出金は、資金需要の低迷により国内法人貸出が減少したことや為替要因を主因に海外貸出が減少したことなどから、前年度末比4.8兆円減少し、79.9兆円となりました。

預金は、個人預金を中心に国内預金が増加したことを主因に、前年度末比0.2兆円増加の124.1兆円となりました。

不良債権残高・比率の状況

不良債権残高・比率

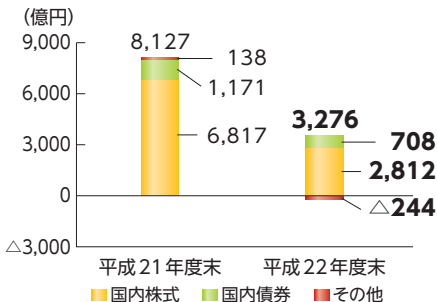


不良債権残高*は、前年度末比819億円増加の1.43兆円となりました。**不良債権比率***は、前年度末比0.17ポイント上昇の1.68%となりましたが、引き続き低水準を維持しています。

*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の2行単体合算

有価証券の含み損益の状況

有価証券の含み損益

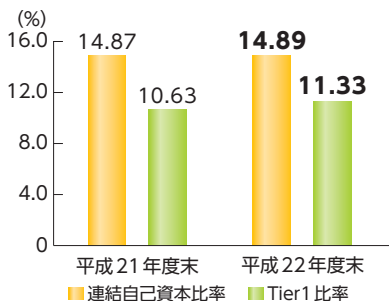


有価証券の含み損益(**其他有価証券評価差額**)は、前年度末比4,850億円減少し、3,276億円の含み益となりました。株式相場の下落に伴い国内株式の評価損益が減少したことが主要因です。

平成22年度の業績

連結自己資本比率・Tier1比率の状況

連結自己資本比率・Tier1比率



連結自己資本比率*は、前年度末比0.02ポイント上昇し14.89%、**Tier1比率****は、前年度末比0.69ポイント上昇し11.33%となりました。

自己資本には算入されるものの中核的な自己資本(Tier1)には算入されない有価証券含み益の減少などにより、自己資本比率の増加はTier1比率の増加より少なくなっています。

* 自己資本比率=自己資本÷リスク・アセット

**Tier1比率=中核的な自己資本(資本金・剰余金など)÷リスク・アセット

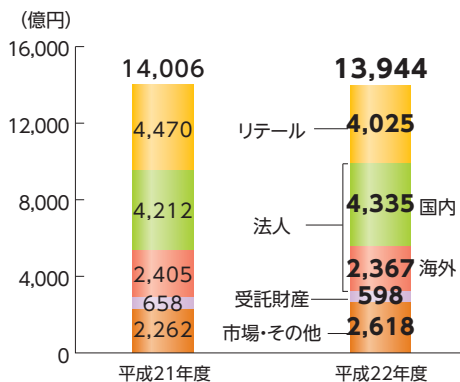
平成22年度決算に関するQ&A

Q 部門別の業績について説明してください。

A 部門別の損益状況を、当社の経営管理上の計数である営業純益で見ますと、顧客部門(リテール、法人(国内・海外)、受託財産)全体では、前年度比419億円減少の1兆1,325億円となりましたが、市場部門の増益でカバーし、全体では前年度比ほぼ横ばいの1兆3,944億円となりました。顧客部門の概況は次のとおりです。なお、平成23年7月には、国際部門を設立する予定です。

リテール部門	運用商品販売収益が好調であった一方、預貸金収益や消費者金融収益の減少により前年度比445億円減少
法人部門 (国内・海外)	投資銀行業務や決済業務などが好調で前年度比85億円増加。海外業務も円高の影響を除けば増益
受託財産部門	投信関連収益が堅調に推移したが、投信運用業務の強化に向けた経費の増加もあり前年度比59億円減少

部門別営業純益



(単位：億円)

損益の状況(連結)	平成21年度	平成22年度
連結業務粗利益(信託勘定償却前)	36,004	35,225
資金利益	21,771	20,200
信託報酬+役員取引等利益	10,936	10,798
特定取引利益+その他業務利益	3,295	4,226
営業費	20,848	20,208
連結業務純益 (一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前)	15,155	15,016
臨時損益(△は費用)	△ 9,030	△ 7,675
うち与信関係費用	△ 7,584	△ 3,366
うち株式等関係損益	324	△ 571
うちその他の臨時損益	△ 1,797	△ 3,851
経常利益	5,456	6,464
特別損益(△は損失)	510	△ 68
法人税等合計	1,509	1,754
少数株主利益(△は損失)	570	△ 1,190
連結当期純利益	3,887	5,830
与信関係費用総額(△は費用) <small>与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用 (臨時損益内)+償却債権取立益+貸倒引当金戻入益 +偶発損失引当金戻入益(与信関連)</small>	△ 7,601	△ 3,541

(単位：億円)

資産・負債の状況(連結)	平成21年度末	平成22年度末
資産の部	2,041,069	2,062,270
うち貸出金	848,806	799,950
うち有価証券	639,644	710,236
負債の部	1,928,074	1,954,126
うち預金	1,238,919	1,241,443
純資産の部	112,994	108,144

(単位：億円)

連結自己資本比率の状況(第一基準)	平成21年度末	平成22年度末
自己資本比率	14.87%	14.89%
Tier1 比率	10.63%	11.33%
自己資本	139,917	130,808
Tier1	100,096	99,533
リスク・アセット	940,813	878,049

クローズアップMUFUG

MUFUGグループでは、リテール、法人、国際*、受託財産の顧客部門がお客さまのニーズにスピーディーかつきめ細かくお応えしています。このコーナーでは、これらの部門を4回に分けてご紹介します。第1回は個人のお客さま向けのサービスをご提供しているリテール部門です。

*平成23年7月に設立予定

リテール部門

個人のお客さまの多様なニーズに、資産運用から各種ローンまで幅広い金融商品・サービスでお応えしているリテール部門。MUFUGリテール連結事業本部長の福本秀和常務執行役員に聞きました。

リテール連結事業
本部長
福本 秀和



Q. リテール部門における、MUFUGならではの強みは？

A. MUFUGグループでは、個人のお客さまから約4千万口座を開設いただいています。お客さま一人ひとりからの信頼の証である個人預金は64兆円に上り、MUFUGの金融機能を最大限に発揮するうえで大切な経営基盤となっています。

お客さまが金融機関に求めるサービスは、従来からの預金業務に加えて、投信、保険、信託、消費者金融など多様化が進んでいます。そうしたなか、銀行、信託、証券、クレジットカードなどの有力なグループ会社が一体となり、多様な商品・サービスをご提供できることがMUFUGのリテールビジネスの強みです。

この強みを最大限に活かすため、グループ内の連携によって各社のノウハウやインフラを結集し、お客さま一人ひとりに最適なサービスをご提供する体制を整えています。なかでも東名阪の三大都市圏に充実した支店ネットワークを有する銀行のお客さまに、MUFUGグループ各社が強みを持つ商品やサービスをご提案したり、ご相談内容に応じて各社の専門家によるアドバイスをご提供することに力を入れています。

Q. 今後の成長戦略について聞かせてください。

A. リテール部門では、「生涯のパートナーとして、お客さまのライフステージに合わせたあらゆるニーズにお応えする」ことを目標にしています。具体的な事業戦略として、生涯の安心や幸せを支える「ふやすニーズ」への取り組みに加え、シニア層の「のこすニーズ」や現役世代の「保障ニーズ」への取り組みを強化しています。

特にシニア層マーケットは高齢化に伴って拡大が見込まれる上、相続や資産運用の個別アドバイスのニーズが強く、MUFUGの強みであるグループ連携が最も発揮できる成長分野と期待しています。

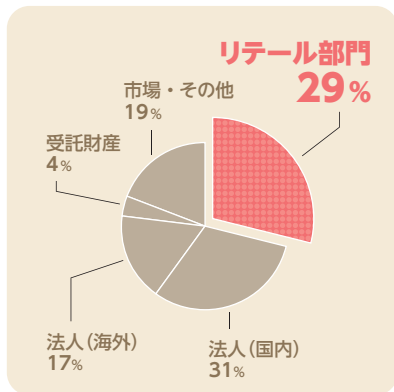
「のこすニーズ」への取り組みでは、平成22年、「万が一の場合、家族が定期的にお金を受け取れるようにしたい」というニーズにお応えする信託商品「家族安心信託」を信託と銀行で共同開発し、両社で取り扱いを始めました。銀行のお客さまに信託の専門家を紹介することにより、不動産を含めた資産全体の活用に関するアドバイスができる体制も整えています。

銀行と証券との連携では、銀行の支店内に証券からの出向者を中心とした「リテールマネーデスク」を設置し、お客さまのご意向を伺いながら証券の幅広い運用商品をご提案できる体制を整えています。

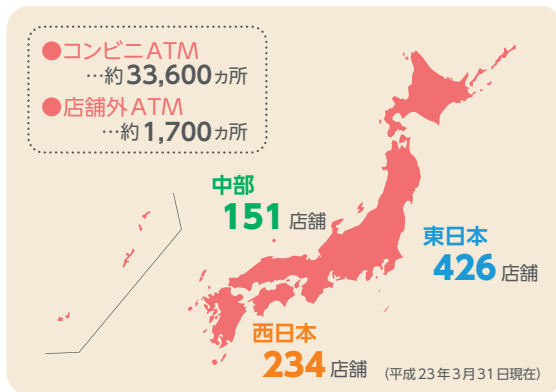
一方、現役世代の「保障ニーズ」への取り組みとしては、万が一への備えから教育資金や老後資金の準備、運用まで幅広いニーズにお応えする保険商品をご用意し、お客さまのライフプランに応じた最適な商品をご提案しています。

また、個人のお客さまの生活をサポートするクレジットカードやカードローン業務は引き続きニーズが強く、グループ各社との連携を強化しつつ、商品力の向上と効率化の推進により収益増強を図ってまいります。

■ 部門別営業純益 (平成22年度)



■ 充実したネットワーク



■ 主なグループ会社(リテール部門)

銀行	三菱東京UFJ銀行	ネット銀行	じぶん銀行
信託銀行	三菱UFJ信託銀行	ネット証券	カブドットコム証券
証券	三菱UFJ モルガン・スタンレー証券	不動産	三菱UFJ不動産販売
クレジットカード	三菱UFJニコス JALカード	プライベート バンキング	三菱UFJ メリルリンチPB証券
消費者金融・ 信販	アコム、モビット ジャックス	外貨両替	東京クレジットサービス (ワールドカレンシーショップ)

1

三菱東京UFJ銀行のインターネットバンキングがもっと便利に

平成23年3月、三菱東京UFJ銀行はスマートフォン（高性能携帯電話）に対応したサービスの提供を開始しました。スマートフォンの見やすく分かりやすい画面で、残高照会やお振り込みなどをスムーズにご利用いただけます。これからも、お取引いただけるサービスを拡大していきます。

また、従来三菱東京UFJ銀行のインターネットバンキングをご利用いただくには、お申し込みから約1週間お待ちいただく必要がありましたが、同行のホームページから申し込まれた場合、申し込み完了と同時に残高照会や定期預金作成などのサービスがご利用いただけるようになりました。

さらに、三菱東京UFJ銀行の普通預金通帳とキャッシュカードをお持ちのお客さまは、同行のホームページよりMUFGグループのインターネット証券会社、カブドットコム証券の証券口座を即時に開設いただけるようになりました。



2

ペルー、中国で海外拠点拡充

平成23年2月、三菱東京UFJ銀行は、ペルーの首都リマに駐在員事務所を開設しました。ペルーは、銀・銅・亜鉛の生産が盛んな世界有数の鉱業国であると同時に、経済が年間8%と力強く成長しており、日系企業を含め、多くの企業が展開しています。同駐在員事務所の開設により、中南米では8カ国10拠点の体制となりました。

また、平成23年3月には、三菱東京UFJ銀行の中国現地法人が、上海虹橋出張所を開設しました。虹橋地区は、上海市西部における商業の中心であり、交通の要所でもあることから、多くの日系企業が進出しています。同出張所の開設で、中国では8支店4出張所1駐在員事務所の13拠点体制となりました。

これまで以上にお客さまのニーズにお応えしていくとともに、さらなるネットワークの拡充を図っていきます。



リマの街並み

3 三菱UFJ信託銀行、中国の資産運用会社へ出資

平成23年4月、三菱UFJ信託銀行は、成長性の高い中国の資産運用市場への参入を目的として、中国の大手証券会社である申銀万国証券の運用子会社「申万菱信基金管理有限公司」に出資(33%)を行いました。

三菱UFJ信託銀行では、資産運用業務の海外展開に積極的に取り組んでいます。中でも中国は、経済成長による個人金融資産の増加などから、投資信託の市場が2.5兆元(約31兆円)まで拡大しています(平成22年12月末現在)。さらに、年金制度の普及・拡充などにより、今後は一大資産運用市場になることが予想されています。

今回の出資を足がかりに、これまでMUFGグループが培ってきた機関投資家向け、個人向けの資産運用ノウハウなどを活用し、中国市場に合った商品やサービスの提供に取り組んでいきます。



4 三菱UFJ投信、最優秀運用会社賞受賞

投資信託の評価機関であるモーニングスター社が主催する「ファンド マネジメント オブ ザ イヤー 2010」において、三菱UFJ投信がインデックス運用型部門で最優秀運用会社賞を受賞しました。

同賞は優れた運用実績と運営体制を有する会社に贈られる賞で、三菱UFJ投信が主要なインデックスファンド*の運用で国内トップの実績を誇る点が評価されたものです。また、同社が運用するインターネット投資家向けインデックスファンドシリーズ[eMAXIS(イーマクス)]の専用サイトでは、積極的に情報提供を行っているほか、定期的に投資家アンケートを行い、ファンドの運用や情報提供などに反映するよう努めている点も評価されました。これからも資産運用のベストパートナーとして、お客さまに選ばれる運用会社をめざしていきます。



*インデックスファンドとは、日経平均株価など特定の指数に連動する投資成果をめざす投資信託のことです。

社会とともに

MUFGグループ各社では、東日本大震災で被災された皆さまのお役に立てるよう、義援金6億円を寄付したほか、MUFGグループ各社の役職員へも義援金を募り、平成23年4月末までに約1億円を寄付しました。このほか、以下の活動に取り組んでいます。

● 三菱東京UFJ銀行仙台拠点の取り組み

三菱東京UFJ銀行の仙台拠点は、震災直後から支店の前でお水・温かいお茶のご提供や携帯電話の充電支援を行いました。

また、国内の行員および家族から集まった「応援メッセージカード」を、ご来店いただいたお客さまへ、使い捨てカイロやウェットティッシュとともにお渡ししました。

● 「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を創設

三菱東京UFJ銀行は公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と共同で、中長期的な復興支援のため、以下の4つのプログラムからなる「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を創設しました。

本基金は、「学校」を基点とし、小学生・中学生・高校生を対象に、物心両面での継続的な支援を行っていきます。三菱東京UFJ銀行が本基金へ10億円を拠出するほか、今後は、同行の役職員やMUFGグループ各社とその役職員へも資金の拠出を呼びかけていきます。

1 奨学金プログラム	東日本大震災により遺児・孤児となった小学生・中学生・高校生を対象に奨学金を給付
2 心豊かな成長プログラム	奨学生が一堂に会する「応援交流会」の開催など
3 花壇再生プログラム	岩手県、宮城県、福島県の被災した小学校・中学校の花壇再生(花苗の寄贈)
4 ボランティア活動プログラム	MUFGグループ各社の役職員による児童・生徒との交流

● 義援金受付口座

三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行では、義援金受付口座を開設し、多くのお客さまにご利用いただいています。

義援金受付口座に関してのご照会は下記までお願いします。

三菱東京UFJ銀行 URL <http://www.bk.mufig.jp/> 電話 0120-818-130 (9:00 ~ 21:00)
三菱UFJ信託銀行 URL <http://www.t.r.mufig.jp/> 電話 0120-876-636 (9:00 ~ 17:00)

🌸 アジア地域の次世代担い手研修

MUFGグループは、平成20年度から、公益財団法人オイスカ*とともに「アジア地域の次世代担い手研修」を実施しています。この研修は、アジアの開発途上国の若者たちを日本に迎え入れ、1年間、組織運営や環境保全型の有機農業技術などを学んでもらおうというものです。今回は、昨年研修を終え帰国した若者たちの活躍の一部をご紹介します。

● バングラデシュ

医師として働きながら、山岳民族の医療支援のボランティア活動を行っていたバングラデシュのアングルさん。彼女が日本に有機農業を学びに来たきっかけは、山岳民族の人たちがビタミン不足など、慢性的な栄養失調状態にある様子を目にしたからです。彼らの食事は、豆や花、木の根など山でとれるものに限られていました。彼女が有機農業を広めたことで、今では山あいの小さな畑から大根、ジャガイモなどがとれ、人々の栄養状態は大きく改善されました。



アングルさん

● ミャンマー

ミャンマーのメイさんは、オイスカの「ミャンマー農林業研修センター」で先生として活動しています。日本で学んだ有機農業技術をミャンマーの地に適応させ、土に優しく身近な材料から作れる有機肥料や日本で学んだ線引き農法を使った田植えなどを地元の研修生たちに教えています。



メイさん

平成23年4月には、新たに11名の研修生を迎えました。今後もMUFGグループは、アジアの若者たちを応援します。

*昭和44年設立の国際NGO(非営利組織)。主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。

三菱東京UFJ銀行 ニューデリー支店

インド ニューデリー

インドの北部に位置する首都ニューデリーは、ガンジス河の支流ヤムナ河の西岸に広がる人口1,200万人の大都市です。国会や大統領官邸に加え、市内各所に遺跡、博物館などの観光名所があり、まさに政治、経済、文化の中心地です。

街の歴史は古く、紀元前6世紀に集落が形成されて以来、17世紀にはムガル帝国の都となるなど、南アジアの中心として繁栄を続けてきました。一時カルカッタへ遷都されましたが、再び首都に戻る際、旧市街の南に新たに建設されたのが現在のニューデリーです。

インドは世界最大の映画大国としても有名。年間製作本数1,000本超は、第2位の米国約600本を大きく上回り、映画館の数も2万館以上と世界一です。週末、映画館は老若男女で一杯になります。平成22年には、ニューデリー近郊にインド初となる映画のテーマパークがオープンし、連日大変な賑わいを見せています。



映画のテーマパークの入口

拠点紹介

ニューデリー支店スタッフ



昭和38年に開設されたニューデリー支店では、現在、派遣行員8名、現地スタッフ121名が勤務しています。インド最大の日系銀行として、自動車、電機、商社など約200社の日系企業とのお取引があるほか、日本企業の当地への進出をサポートしています。また、政府系企業を中心とするインド大手企業とのお取引も近年、急速に増えています。

経済成長が続くインドですが、道路、港湾、電力、水道などの社会基盤がまだまだ不足しており、さらなる経済発展に向けたこれらの整備プロジェクトへの融資業務も強化しています。平成22年には、経済成長に伴う資金需要増大に応えるため、資本の増強も行いました。今後も同国で積極的にビジネスを拡大していきます。

現地レポート From India



◎ インドの食卓 ◎

インドと言えばカレーです。北インドの伝統的なカレーは銀色の丸い金属製の大皿の上に、数種類のカレーや辛いカレーに混ぜるヨーグルト、ナンなどを小さい器に盛り、並べて食べるのが一般的です。また、香辛料を効かせた豆やジャガイモなどの野菜やチーズなどを包んで食べる揚げパン「チョーレバトウーレ」は、ヨーグルトドリンクであるラッシーとともに、手軽な朝食として人気があります。



北インドの代表的なカレー



庶民の手軽な朝食として人気の
チョーレバトウーレ

◎ ホーリー祭 ◎

インド暦11月(太陽暦3月)の満月の日に春の訪れを祝うお祭りで、秋の「ディワリ祭」と並ぶヒンドゥー教の2大祭りの一つです。色がついた粉や水を掛け合うことで、邪鬼を追い払えとされています。



◎ レッドフォート ◎

その名のとおり赤い岩で固められた城塞です。17世紀半ばにムガル帝国の皇帝により建築され、1857年に最後の皇帝バハドゥールシャーザファルが退位するまで帝国の首府として利用されました。平成19年には世界遺産にも登録されました。



◎ アクシャルダム ◎

平成17年に完成した、世界最大のヒンドゥー教寺院で、ニューデリーの観光客の約7割が訪れる新しい観光名所です。大理石などの石だけで作られた建物群の中にはヒンドゥー教の神話、インドの歴史などが展示されています。



◎ 街中の動物 ◎

ヒンドゥー教で神の乗り物とされている牛は、街中でのんびり暮らしています。ほかにも、子どもの誕生日パーティーなどで人気の象、結婚式で花婿の乗り物となる白馬、荷物運搬用のラクダなどを見ることができます。



MUFG 株主セミナー開催のお知らせ

日頃ご支援いただいております株主の皆さまを対象に、下記のとおりセミナーを開催いたします。これまで多くの株主さまからご応募いただきましたが、会場の都合などによりご希望にお応えできなかったことから、今回より回数を増やします。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。


開催概要

募集対象者……平成23年3月末時点で当社株式を100株以上お持ちの株主さま
(同伴者1名さままで可)
参加費……無料

① 経済セミナー(東京・大阪・名古屋)

開催日時	【東京】 東京都千代田区 平成23年10月12日(水) 10:30～12:00頃	
	【大阪】 大阪府大阪市中央区 平成23年10月4日(火) [午前の部] 10:30～12:00頃 [午後の部] 14:00～15:30頃	
	【名古屋】 愛知県名古屋市中区 平成23年10月13日(木) [午前の部] 10:30～12:00頃 [午後の部] 14:30～16:00頃	
開催場所	三菱東京UFJ銀行内ホール	
内容	テーマ：「内外の経済・金融を展望する」(仮題) 講師：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 執行役員調査本部長 五十嵐 敬喜 氏	
募集人数	【東京】250名 【大阪】各回150名 【名古屋】各回100名	

② 為替相場セミナー&ディーリングルーム見学会(東京のみ)

開催日時	第1回 平成23年10月18日(火) 13:30～16:00頃 第2回 平成23年10月19日(水) 13:30～16:00頃	
開催場所	三菱東京UFJ銀行内会議室およびディーリングルーム(東京都千代田区)	
内容	第一部 為替相場セミナー(三菱東京UFJ銀行のアナリストが解説いたします) 第二部 ディーリングルーム見学会(ディーラーが取引を行う現場をご覧ください)	
募集人数	各回100名	

応募要領

応募方法 同封の「MUFG株主セミナー参加申込書」に必要事項をご記入の上、ご投函ください。

締め切り 平成23年8月1日(月)消印有効

ご記入要領

1. ご希望のセミナーおよび開催時間を選択してください(いずれか一つをお選びください)。
2. 株主さまのご住所、お名前、お電話番号、株主番号(「配当金領収証」または「配当金計算書」の住所氏名欄の下段8桁の番号)をご記入ください。
3. ご同伴者さまがいらっしゃる場合は、その方のご住所、お名前をご記入ください。
4. 個人情報保護シールをはがし、折り曲げてしっかりと貼り付けてご投函ください。

応募多数の場合、抽選方式といたしますのであらかじめご了承ください。

厳正な抽選の上、当選された株主さまには平成23年9月初旬にご招待状をお送りいたします。

◎ご注意◎

1. 当日の受付時刻および集合場所等の詳細につきましては、当選された株主さまに別途ご案内いたします。
2. 開催場所までの往復の交通費は各自でご負担いただきます。
3. 応募時に必要事項の記入漏れがあった場合には、無効となる可能性がございます。
4. やむを得ない理由で中止や内容変更となる場合がございます。

お問い合わせ先：株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

電話：03(3240)8111(代)

東日本大震災等に伴う 当社株主優待サービスの取り扱いについてのお知らせ

1. ピーターラビット™ オリジナルグッズのお届けについて

お申し込みいただいたオリジナルグッズは4月中のお届けを予定しておりましたが、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故の影響により、一部地域の方にはまだお届けできておりません。

郵便事情が改善され次第対応いたしますので、今しばらくお待ちください。なお送付先の変更をご希望の方は、下記のMUFG株主倶楽部専用デスクにご連絡ください。

2. ご優待クーポン券の再発行について

東日本大震災により、ご優待クーポン券を紛失または汚損された方は、再発行いたしますので、下記のMUFG株主倶楽部専用デスクにご連絡ください。なお、震災以外の事由による再発行はいたしておりませんので、あらかじめご了承ください。

MUFG株主倶楽部
専用デスク

0120-321-629 (通話料無料)

受付時間：土・日・祝祭日を除く9：00～17：00

会社情報 / 株式情報

取締役・監査役（平成23年6月29日現在）

取締役会長 (代表取締役)	おきはら たかむね 沖原 隆宗	常務取締役 (代表取締役)	はせがわ まさお 長谷川 理雄	取締役*	わたなべ かずひろ 渡邊 一弘
取締役副会長 (代表取締役)	おかうち きんや 岡内 欣也	取締役	とよいづみ としろう 豊泉 俊郎	取締役*	おおとし たくま 大歳 卓麻
取締役社長 (代表取締役)	ながやす かつのり 永易 克典	取締役	てらおか しんすけ 寺岡 俊介	常勤監査役	まえだ つお 前田 哲男
取締役副社長 (代表取締役)	たなか たつお 田中 達郎	取締役	わかばやし たつお 若林 辰雄	常勤監査役	ねもと たけひこ 根本 武彦
取締役副社長 (代表取締役)	ひらの のぶき 平野 信行	取締役	おやまだ たかし 小山田 隆	監査役**	たかすか つとむ 高須賀 昴
専務取締役 (代表取締役)	ゆうき たいへい 結城 泰平	取締役	のぐち ひるゆき 野口 裕幸	監査役**	おかもと くにえ 岡本 國衛
常務取締役 (代表取締役)	はまかわ いちろう 浜川 一郎	取締役*	あらかし りゅうじ 荒木 隆司	監査役**	いけだ やすし 池田 靖

* 荒木 隆司、渡邊 一弘、大歳 卓麻の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

** 高須賀 昴、岡本 國衛、池田 靖の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株式事務のご案内

定時株主総会基準日	3月31日	
定時株主総会	6月下旬	
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 / 中間配当金 9月30日	
公告掲載方法	当社の公告は電子公告により行っております。 電子公告掲載URL : http://www.mufg.jp/ ただし、やむを得ない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。	
上場証券取引所	東京、大阪、名古屋、ニューヨークの各証券取引所	
株式 事務 取扱 場所	株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
	事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
	お問い合わせ先・ 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 : 0120-232-711 (通話料無料) (受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

■ 株式に関する手続き

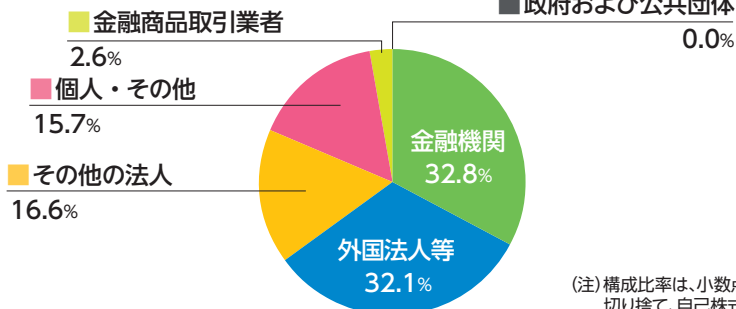
住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定、買取請求その他各種手続き	<ul style="list-style-type: none"> 証券会社の口座に当社株式が記録されている株主さま 口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ります。 特別口座に当社株式が記録されている株主さま 上記三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ願います。
未受領配当金の支払	三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

(注) 「特別口座」とは、株券電子化実施までに証券会社等を通じて証券保管振替機構に預託されなかった株式について、平成21年1月の株券電子化制度への移行時に、株主の権利を確保するため、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）に株主名簿上の株主名義で開設された口座です。

株式の状況 (普通株式) (平成23年3月31日現在)

■ 株式の状況	発行済株式の総数	14,150,894,620 株
	株主数	768,753 名

■ 所有者別分布状況



■ 大株主

	持株数 (株)	持株比率 (%)
1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	850,123,600	6.00
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	660,478,900	4.66
3 SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	302,011,150	2.13
4 日本生命保険相互会社	271,322,953	1.91
5 ザ バンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリー バンク フォー デポジタリー レシート ホルダーズ (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	253,204,861	1.78
6 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 9)	236,328,600	1.67
7 ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	233,211,189	1.64
8 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)	175,000,000	1.23
9 トヨタ自動車株式会社	149,263,153	1.05
10 ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	146,358,371	1.03
合計	3,277,302,777	23.15
発行済株式総数	14,150,894,620	100.00

- (注) 1. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 2. ザバンクオブニューヨークメロンアズデポジタリーバンクフォーデポジタリーレシートホルダーズは、ADR(米国預託証券)発行のために預託された株式の名義人であります。

グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を
グループメッセージとして、
お客さまとのさまざまな
コミュニケーションの場で展開していきます。

Quality for You

このメッセージには、
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の
『質』の向上をお手伝いしたい。
そして、こうした活動を通じて
地域・社会の発展に貢献していきたい」
という私たちの想いを込めています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1

電話03(3240)8111(代表)

URL:<http://www.mufg.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター
電話:0120-232-711(通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)